



学校再開に向けて

帝京大学小学校校長 石井 卓之

待ちに待った学校再開の6月9日(火)まで、あと10日余りとなりました。昨年度の3月から約3か月間、社会全体もそうですが学校はその機能を停止せざるを得ませんでした。集団生活を学ぶことがその役割の一つでもある故に、無力感を感じたこの間でした。東京都の多くの公立小・中学校が、設備やネットワーク環境の問題からオンラインでの授業が思うようにできない中、帝京大学小学校では試行錯誤を繰り返しながらも着実に授業を進めてきました。もちろん他の私立学校の中には、すでにネットワーク環境の整備ができており、質の高いオンラインでの授業実践をしている学校もあります。しかし、私はこの4月に着任して教職員のチームワーク力や日々の授業への取組姿勢を見るにつけ、手前味噌ではありますが誇らしく感じています。

5月15日、文部科学省の局長名で『今後の「学びの保障」の方向性等について』という文書が出ました。その中には、「新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ、子供たちの健やかな学びを保障することとの両立を図っていくことが重要です。」「学校教育が協働的な学び合いの中で行われる特質を持つことを鑑み、…(中略)…、学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進めていくことが大切…」「感染防止対策を徹底したうえで、段階的に教育活動を開始し、学校における教育活動を充実していくことが必要です。」とあります。

帝京大学小学校では今、文部科学省から出された「学校の新しい生活様式」を踏まえながら懸案事項を整理して、対応策を進めています。以下はその取組の一例です。

1 子どもたちの心に寄り添います

一見、元気に見えていても、不安やストレスからメンタルヘルスの問題をかかえてしまったり、これまでの学校生活の仕方と大きく異なる変化に戸惑いを感じたりする子どもたちがいる可能性があります。

- (1) ストレスの軽減を重視しながら、学校や学級に慣れる時間をしっかりと確保していきます。また、いじめや不登校などが起こるリスクが高まることを踏まえて、一人ひとりの子どもの行動を全教職員で見守っていきます。
- (2) 本年度から配置したスクール・カウンセラーと連携して、子どもたちの心のケアを行います。

2 分散登校時の学習の充実を図るために、新たなオンライン授業を並行して行います

- (1) Google Classroom を使うことで、Web上での課題のやり取りなどができるようになります。
- (2) オンライン授業の精度を高め、第二波が起きたとしても学びを止めない体制をつくっていきます。

3 何が起きているのかを事実を伝え、子どもたち自身が自分の身を守る方法を示していきます

- (1) 感染リスクを減らして安全を確保するための行動の仕方を指導します。
効果的な手洗い、ソーシャルディスタンスの取り方を映像などで分かりやすく説明します。ご家庭での指導もお願いします。

4 感染防止のための環境を整えます

- (1) 3密及び通勤ラッシュを避けるために、スクールバスの配車と乗車の仕方を工夫します。
- (2) 教室での机と机の距離を離すとともに、当面はグループ活動の仕方に配慮します。
- (3) 感染リスクを避けるための校内体育着の使用を行います。
- (4) 保護者の皆様にはご苦勞をおかけしますが、配膳時のリスク回避のために、昼食を弁当にします。

いよいよ学校再開に向けての準備が加速度的に進んでいきます。手探りの対応や対応の仕方の変更もあると思いますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。